

【4】 宗教や文化と福祉サービス

1. 概要

日本人は、宗教に対してぼんやりとしたイメージで捉えていることが少なくありません。そのため、宗教に対する偏った印象を持ってしまう人もいます。ですが、宗教的実践の一部分を切り取って否定的なイメージで捉えられたり、良い悪いで評価されたりすることは、信仰心のある人にとって不本意であり、その人自身が否定された気持ちになる場合もあります。また、福祉サービスを利用する際には、福祉サービス提供事業者等に信仰心やそれに関する慣習を否定されてしまうのではないかと懸念し、利用を諦めてしまう人もいるかもしれません。

一部の国では宗教に基づいた法律・制度が制定されていたり、国教が規定されているなど、宗教が国の重要な構成要素になっている場合もあります。外国人に限ったことではありませんが、信仰を持つ人々にとっては、宗教は生活の一部として密接不可分で、自分の生き方につながる大切なものでもあります。

外国人利用者に福祉サービスを提供する際は、個々の希望に沿うことが難しくとも、その思いを尊重する姿勢を持つことが大切です。また、サービスの利用にあたって、上手いかない理由に宗教上の問題が影響している可能性も考慮するとよいでしょう。

同じ宗教でも国によって、または家庭や個人によって考え方に違いがあるため、対応については決めつけず、個別に確認するようにしましょう。日本の法律等で禁止されていることや、規則上できないことについては、宗教を尊重しながらも、希望通りにできない理由を相手にきちんと説明し、理解してもらうよう努めることも大切です。

2. 主な宗教の特徴と必要な配慮

○イスラーム

預言者ムハンマドが神から啓示を受けてまとめたクルアーンを聖典とし、アッラーを唯一の神とする宗教です。ムスリム(イスラーム教徒)は、1日に5回メッカの方向にお祈りをします。年に1回ある断食月、ラマダンでは原則として、日の出から日没までは水を含めて何も口にすることができません。

ムスリムは豚肉やアルコールを摂取することが禁忌とされているのはよく知られていますが、豚肉以外の食材でも教義に基づいて製造・調理されたハラール(「許可された」「合法的」の意味)の食事でなければ口にすることができません。最近では、製品がハラールかどうかを確認するためのアプリなども開発されており、日本の食材についても調べることができます。

また、イスラームの教えでは異性との接触は望ましくないとされており、成人女性は親族の男性以外には接触しないのが一般的です。このような教義に関連し、女性が未婚で出産することは望ましくないとされています。また、犬に舐められると汚れるという考え方もあり、犬に近づくことを避ける人がいるという点も覚えておくといよいでしょう。



ムスリムの聖典、クルアーン

○仏教

2500年ほど前にゴータマ・ブツァを開祖として説かれた教えに基づく宗教です。現在の北インドが発祥の地とされ、その後、チベット、スリランカ、ベトナム、日本といったアジアの国々に広がり、それぞれの形で発展しました。例えばスリランカに伝わった上座部(上座)仏教は瞑想の実践を大切にしますが、ベトナムや日本を含む東アジアなどで広く信仰されている大乘仏教は他者を救う行為を重視するなど、伝統によって信仰の在り方が変わると言えるでしょう。

出家をしていない仏教徒は生活上の厳しい制限がないため、日本で日常生活を送るには支障をきたさないことが多いです。また、一部の国では男性は一生に一度、一時出家をすることが良いとされており、日本にも少数ですが、ベトナム仏教、チベット仏教、テラワダ仏教の寺院があり、活動しています。



タイの寝仏

○キリスト教

神がイエスをキリスト(救い主)として、人間の姿で世界に送り込んだという出来事に対する信仰を基にした宗教です。様々な宗派がありますが、カトリックとプロテスタントの2つが代表的宗派と言えるでしょう。キリスト教になるには洗礼という入信の儀式を受ける必要があり、両親がキリスト教徒の子どもは生まれて間もなく洗礼を受けることが多いです(幼児洗礼)。ほとんどの宗派で日曜日に礼拝が行われ、クリスマスやイースター(復活祭)などの記念日が重視されています。

一部の敬虔なキリスト教徒は、飲酒、喫煙の禁止や男女交際の制約といった教義に従っている場合もありますが、その他の一般的な信者の日常生活は、通常の日本人と大きく変わらないと言えるでしょう。



ブラジル、コルコバードのキリスト像

○ヒンドゥー教

バラモン教という宗教から聖典やカースト制度を引き継ぐ中で誕生した宗教です。日常的な礼拝を重視しますが、すべての人が同じ神様に祈るのではなく、個人的に特別な関係を持つ個人の神(イシュタ・デーヴァター)が祈りの対象となることもあります。神様は皆同様に力を持っているという考え方から、多様な神に対して寛容であり、御利益があるという評判を聞けば他の聖地に出かけて祈願する人も少なくないようです。

信者の多くはベジタリアンであることが多く、特に神聖な動物と位置付けられる牛の肉を食べることは禁忌とされています。また、バラモン教の教えに由来するカースト制度によって職業、交際、結婚に厳しい制限が課される場合もあります。特に上位カーストに属する人はけがれに対する嫌悪感が強い場合や、女性が外出をすることを好まない女性隔離の習慣に馴染みが深い人もいるので、配慮が必要になる場合があります。



ヒンドゥー教の神様、ガネーシャ

○ユダヤ教

古代イスラエルに発祥し、唯一の神、ヤハウェを信じる宗教です。ユダヤ教の宗派は食事の規定を厳格に守り、外見的な特徴(黒服、黒の山高帽を身に着ける等)を有する正当派、現代社会に合わせて食事の自由を認めた生活をする改革派、その中間に位置する保守派の大きく3つに分けられます。

ユダヤ教は「カシュルート」という食事規定により、食べてよいもの・いけないものが厳格に区別されています。食べてもよいかわからない食材についてはラビ(宗教指導者)に判断をしてもらうなど、食に対してとても慎重です。食事の際は細かな配慮が必要となる可能性があります。



ユダヤ教のシンボル、ダビデの星が彫られた墓

3. 個人の思想や価値観と文化

それぞれの国が持つ文化は、歴史上、宗教と深くかかわってきた要素が大きいです。独自に発展した文化もたくさんあります。また、文化にかかわらず、個人が持っている思想や価値観もありますので、相談対応する際には、必要に応じて確認しましょう。

◆しつけ

日本では体罰が虐待とみなされますが、親が子どもに手をあげることが日常的な国も少なくありません。子どもに憑(つ)いている悪いものを払うために体を叩くことが許されている宗教もあります。いずれの場合も、文化や宗教に対する理解は示した上で、それでも日本において、子どもに手をあげるとは許されないと、伝えるようにしましょう。

◆食事

ハラールやカシュルートは宗教と結びつきの強い食文化ですが、ベジタリアン(肉魚介類等、それらに由来するものを食べない人)、ヴィーガン(乳製品や卵などの動物由来の食品を一切摂取しない人)、マクロビオティック(農薬、添加物が使われているものを食べない人)といった食事への姿勢は宗教だけでなく、本人の価値観、思想によって決定されることも珍しくありません。

◆男子割礼

イスラーム、ユダヤ教の国では90%以上の男性が宗教の慣習として割礼を終えている一方、韓国では医療的な観点から多くの男性が割礼を受けているというデータもあります。

宗教に関して気を付けること

信仰する宗教がある外国人を受け入れる施設職員からの相談です。

相談者：入所施設職員 対応者：外国人相談窓口



入所施設に外国人が入所することになりました。どんなことに気を付ければよいですか。



- ◆まずは入所する人の宗教を確認しましょう。
- ◆その上で、食事、礼拝等、宗教に関連して必要となる配慮がないか確認し、施設内でどのように対応するかを検討しましょう。
- ◆宗教関係者との面会を希望した場合、できる限り柔軟な対応を検討するとよいでしょう。

外国人の中には宗教を大切にしている人が多くいます。信仰によっては食事や職員の対応に配慮が必要になる場合もあるため、入所が決まった段階で宗教上で何か気をつけるべき点はないかを確認するとよいでしょう。以下では宗教別に主な例を挙げていますが、必要となる配慮は人それぞれです。外国人に限ったことではありませんが、個人ごとに確認をし、施設内でどこまで対応ができるか、事前に検討をするとよいでしょう。

◆入所施設において配慮すべき代表的な点

	配慮すべき点
ムスリム	<ul style="list-style-type: none">・アルコールを含む食材(みりん、酢、醤油等)を使わない・豚肉だけでなく、ハラール処理されていない食材は使わない・ハラール食材以外を調理した調理器具を使わない・女性の体に触れることは女性が行う・1日5回のお祈りとお祈りの前の体の浄化への協力・ムスリム女性が肌の露出を避けるために使用するヴェールへの理解
仏教徒	<ul style="list-style-type: none">・出家していない信者であれば大きな制限がない場合が多いが、国と宗派にもよるため、その都度確認する
キリスト教徒	<ul style="list-style-type: none">・宗派によって、アルコール摂取が好まれない場合があるので、アルコールを含む調味料を使用してよいか確認する
ヒンドゥー教徒	<ul style="list-style-type: none">・牛肉自体や牛由来の成分を含むスープ等を使わない・女性はサリーで体を隠す必要がある。身に着けているアクセサリーを外すことに抵抗がある人もいるので、手術等で取り外しを求める際は事前に説明をする
ユダヤ教徒	<ul style="list-style-type: none">・豚、イカ、タコ、貝類等の食材は食べない・食材の組み合わせに注意が必要(例：乳製品と肉料理は一緒に食べない)

この他にも、信仰していない宗教に関する場所(神社やお寺等)に行くことや、他宗教に関する行事に参加することに抵抗を感じる人もいますので、気を付けるとよいでしょう。また、特定の宗教を信仰していない人だとしても、国や文化の違いから配慮が必要となってくる場合もあります。それぞれの要望を聞きながら、施設で対応できること、できないことを整理し、お互いが気持ちよくサービスを提供、利用できるようにするとよいでしょう(→P.11、25)。

埋葬について

信仰する宗教がある外国人の埋葬方法に関する相談です。

相談者：施設職員 対応者：外国人相談窓口



支援している外国人が亡くなりました。その人はイスラームを信仰していたのですが、家族は日本で埋葬を希望しています。どのように埋葬をすればよいでしょうか。



- ◆宗教により、埋葬の方法が異なることを理解しましょう。
- ◆少数ではありますが、日本国内で様々な埋葬方法に対応している霊園もあります。可能な限りの情報提供をしましょう。

日本では火葬をして、お骨を墓に埋めるのが一般的ですが、海外では土葬を行うところも多くあります。また、イスラームなどでは終末の日に死者が復活すると考えられているため、火葬が禁止されているなど、国や宗教などにより埋葬方法が異なります。亡くなった人や遺族の思いを汲んだ埋葬をするためにも、葬儀に関する相談に対しても情報提供ができることが望ましいです。

土葬の可否は市町村の条例が関連するので、市区町村役場に相談するように情報提供しましょう。個人で墓地を購入し、建てる場合は、公立霊園が利用できますが、共同墓地を希望する際は、各地にある外国人墓地※に埋葬することも可能です。また、外国人の遺族の中には、故人の遺体を本国に輸送することを希望する人もいます。その場合の手続きについてはP.32を参照ください。



◆日本国内にある主な外国人墓地または宗教ごとの霊園と所在地、管理団体

	霊園名(所在地)	管理団体
イスラーム	やわらイスラーム墓地(茨城県常総市)	宗教法人日本イスラーム文化センター
	イスラーム霊園(山梨県甲州市塩山)	宗教法人日本ムスリム協会
	大阪イスラミックセンター橋本墓地(和歌山県橋本市)	大阪イスラミックセンター
	清水霊園イスラーム墓地(静岡県静岡市)	清水霊園東京事務所
中華系	中華義荘(兵庫県神戸市)	一般社団法人中華会館
	中国帰国者公墓「平和の碑」(名古屋市天白区)	中国帰国者公墓管理委員会
コリアン	王寺霊園(奈良県北葛城郡王寺町) ※在日コリアン向け	一般財団法人王寺霊園
その他	メモリアル・リスタート・コミュニティ(東京都八王子市) ※宗教問わず対応	一般社団法人日本海外協会

※外国人墓地は日本の西洋文化への発展に関わる著名人などをはじめ、多くの外国人が埋葬されている墓地で、各国領事館との協定のもと管理・運営されている横浜外国人墓地をはじめ、神戸市、函館市のものが知られています。